

我ら信濃川・大河津分水を愛する！

NPO信濃川大河津資料館友の会  
法人信濃川大河津資料館友の会

Vol.36 平成26年8月発行

## 私のおすすめスポット

会員 山田 美登里 (さいたま市在住)

私のおすすめは、5年前に友の会「荒川探訪ツアー」に参加の皆様と初めてお会いした「岩淵水門と荒川放水路」です。今年に通水90周年となり、私が青山土さんや荒川治水資料館を知る契機となりました通水75周年から既に15年の月日が経過しました。その途中に「大河津分水」を知り、友の会の皆様との出会いがありました。数年前から岩淵水門を起点に放水路を歩き始め、河口まで約22kmありますが、その途中、四ツ木橋(墨田区)の辺りで諸般の事情により中断しています。サイクリングで走り抜けることも爽快かと思いますが、ゆっくりと探訪しながらのウォーキングも時間はかかりますが宜しいのでは・・・。

「荒川知水資料館」に於きましては、「アラボラ講座」と称しまして月1回のペースで、ボランティア講師の方が青山土さんをいろいろな角度から捉えてわかりやすく、熱心にお話ししてくださいます。この15年間に、知る事の大切さ、多くの方々との出会いの有難さを改めてかみしめています。

放水路通水90周年の今年、これまでを顧みると共に将来の放水路に思いを馳せる時、普段は静かな佇まいのこの地ですが、過去の大洪水にも増してゲリラ豪雨や直下型地震等を想定しての関係者の方々のこれまで営々と続けて来られた、そして、これからも続くであろうご努力に感謝しさらに期待するところです。

青山土さんのお言葉通り、この地域が、世の中が少しでも良くなる様に各々の立場で関心を持ち続ける事が大切かと思っています。

おしまいに、会員の皆様!! 上京の際には是非是非、荒川放水路(荒川知水資料館)へお立ち寄りください。(最寄り駅 JR京浜東北線「赤羽駅北改札口」東口)

余談になりますが、東口を出まして振り返りますと新岩淵水門(青水門)をイメージしたとされるデザインの駅舎が目に入る事と思います。ご一見あれ。



青山土が設計した岩淵水門(赤水門)



現在稼働中の岩淵水門(青水門)

### 特別企画「青山さんと語る会」を開催

日時：平成26年6月28日(土) 14:00~16:00  
場所：大河津資料館 2F 多目的ホール 参加：12名

青山多恵さんをお迎えし、青山さんと語る会を開催しました。宮本さんが都合で参加いただけなかったことは残念ですが、早川理事長の青山土講和、樋口理事による宮本武之輔講和の後、青山さんの新潟時代の思い出、父青山土のこと、友の会の印象など、氏ならではの話をたっぷりお聞きできました。「酒をあまり飲まない父が年1回の新潟での会合から、いつも嬉しそうに帰ってきた。分水が大事にされていることがうれしかったのだろう」「私もこんなに長く関心を持たれているのは大河津だけだと思う」とのお話がとても印象的でした。(事務局)



青山多恵氏

### 新可動堰改築事業竣工式挙行

日時：平成26年6月29日(日) 10:00~  
場所：分水路河川敷

洗堰改築事業竣工の翌平成15年に着手した可動堰改築事業が竣工し約200名が参加して記念式典が開催されました。平成23年7月の大出水で工事現場が浸水するアクシデントに見舞われながら、その年11月23日に通水、旧可動堰から役目を引き継ぎました。その後旧可動堰撤去、河川敷造成、管理橋完成を経て、今日を迎えました。旧可動堰管理橋の高欄を用いた新管理橋親柱の除幕で竣工を祝いました。(事務局)



新可動堰管理橋親柱

## 理事長だより～典生のつぶやき～

### 自在堰の陥没と岡部三郎

1927(昭和2)年6月雪解け水により増水していた信濃川の奔流は、完成後5年の間活躍していた自在堰を、一基また一基と押し倒すように転がしていった。すなわち自在堰の陥没である。これにより20年にわたる第二期工事の労苦の結果である大河津分水は、流量調節という重要な機能を果たせなくなった。正に工事を担った内務省の面目丸つぶれである。この事態に内務省は、若きエース宮本武之輔を現地総監督として派遣し、その上部機関である新潟土木出張所の所長には、業績の誉れ高い青山士を送りこんだ。ご存知大河津分水補修工事の始まりである。

ところで自在堰の陥没にかかわる責任の問題はどうなったのだろうか。自在堰を設計した岡部三郎の身には何事が起ったのであろうか。この自在堰の事故原因に関しては、内務省の発表はあったのではあるが、その内容はいかにも中途半端である。そして、岡部をはじめ誰かが処分されたという事実は知られていない。

にもかかわらず、岡部三郎は大河津分水工事のなかで、あまり取り上げられていないのである。何となく、岡部三郎は失意のうちに残りの人生を送ったような印象を持っているのは私だけだろうか。大河津資料館の展示を見て歩くうちに、これは一つには宮本が行ったとされる補修工事従事者への演説のせいもあるのではないかと思うようになった。その演説で宮本はこう言ったという。「この工事は、、、犠牲になった同僚、先輩たちへの弔い合戦である。」ここに使われている「犠牲」、「弔い合戦」という言葉は誠に強い言葉であり、本当にこう言ったのであろうかと思わせる。本当のところは「藪の中」ではなかろうか。

岡部三郎のその後はどうなったのであろうか。1929年彼は官職を辞し、東亜港湾株式会社(後に東亜建設工業と改名)という一流の港湾工事会社に入り、やがて1946年から1974年までの28年間、その会社の社長も務めた。その間、土木学会会長をはじめ、各種の土木、経済界の審議会等で活躍した。まさに華々しい経歴を飾ったと言える。しかも一方で、大河津分水に対する関心も決して失わなかった。1964年土木学会誌に投稿して、関屋分水を作る代わりに、五十嵐川と刈谷田川の洪水流量の一部を大河津分水に流す案を提案している。このような案は、近年のこれら中小河川での大出水対策として参考になるのではないだろうか。(この岡部三郎の提案は大河津分水双書第八巻に収録されている。)

2011年春、私の大学時代の同級生2名が長岡にやってきて、久しぶりに旧交をあたためたことがあった。翌日、私は得意顔で大河津資料館に案内した。資料館の2階の展示まで来ると、そのうちの一人が(彼は実は数年前まで東亜建設工業の社長だった!)言った。「オ、岡部さんがいる。懐かしいな。」私はちょっと驚いて「なんだお前知っていたのか。」と言った。すると彼は私の方へ向き直って言ったものだ。「岡部さんは非常勤講師として大学へやってきて、我々に港湾工学を教えてくださいませんか。お前はその授業に出ていなかったのか。」あ、いけない。その時代、私は勉強嫌いだった。いやこのままではいけないとは思っていた。しかしやはり、港湾工学とかいう“ごちゃごちゃした”話は嫌いだった。まったくこの年になって、こんなところで恥をかくととは。

### 第2回資料館ガイド研修～避難・消火訓練～

日時：平成26年6月21日(土)9:00～12:00

場所：大河津資料館 参加：15名

ガイド研修にあわせ、分水消防署の指導による避難・消火訓練を行いました。ぶっつけ本番の避難訓練は、写真を撮る間もない慌ただしさ。消防への通報、火災報知器の停止方法など、いざという時にあわてないための日頃の訓練の大切さを学びました。

(支援部・事務局)



水消火器による消火訓練

### 環境美化に汗 ～信濃川クリーン作戦と庭木剪定～

日時：平成26年7月12日(土)9:00～10:00

場所：資料館～本川橋下流堤防 参加：9名

「信濃川をきれいにする会」活動の一環として、本川橋下流堤防と大河津資料館周辺のクリーン作戦と庭木の剪定を行いました。橋詰駐車場周辺の空き缶や弁当ゴミ、吸い殻の多さに驚きました。(支援部)



クリーン作戦の様子

### 河川文化講演会「7.13水害ミニシンポジウム」を開催しました

日時：平成26年6月21日(土)13:30～16:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール 参加：20名

新潟・福島豪雨から10年の機会に、松井光子さん(中之島)、安達吉信さん(栃尾)、吉川敬之さん(三条)をゲストにお迎えし、樋口理事の問いかけに答える形で、体験談やその後について思いを語っていただきました。中之島保育園長として園児をヘリで救出してもらった松井さん。仕事先の見附で孤立し民家に避難させってもらった安達さん。水防団員として五十嵐川の水防や、被災後の救助活動に奮闘された吉川さん。ずっと語り続けてほしい、貴重な体験談をお聞きできました。(事業部)



## 県内バスツアー「中越地震から10年メモリアルツアー」を開催

日時：平成26年7月5日(土) 9:00～17:00 参加：23名

今回訪れたのは、川口きずな館、震央メモリアルパーク、やまこし復興交流館おらたる、木籠メモリアルパーク、妙見メモリアルパーク、おぢや震災ミュージアムそなえ館。それぞれの経験を伝えるために整備されたメモリアル施設です。

水没してしまった木籠集落。水没家屋を残された松井治二さんは、東北の人たちに震災遺構を残す意義を説いておられるとのこと。10年の歳月を感じつつ、伝えることの大切さを学んだ旅でした。(事業部)



木籠メモリアルパークにて

## レンタサイクル 始めました



8月27日  
スタート

大河津分水のあっちもこっちもいっぱい見てもらいたい。そんな思いから、資料館管理補助業務の一環として、無料レンタサイクルを始めました。ご利用下さい。

自転車：3台  
貸出時間：9時～16時  
対象者：中学生以上  
1回の利用時間：1時間



## 水辺で遊んで学びました

日時：平成26年8月9日(土) 9:00～11:00 参加児童15名

NPO 法人水環境技術研究会との共催で、燕市の小学生を対象にした水辺の生き物観察会を開催しました。最初は「川に入るのが怖い」「虫がいてイヤ」という声も聞かれましたが、一旦会場の体験水路に入ると「エビがたくさんいる!」「あっちにも行ってみよう!」など川遊びを楽しむ声に。会員のサポートのおかげで、子供たちには大変楽しく、有意義な体験学習会となりました。(事業部)



## 松山市・宮本武之輔を偲び顕彰する会のみなさんと交流しました

ヤクルトスワローズのキャンプ地など全国4市で持回り開催されている少年野球大会が、8月16日～18日に燕市で開催されました。参加する松山市のチームに同行して、宮本武之輔を偲び顕彰する会の鈴木会長、古川副会長、石丸事務局長が来燕されました。武之輔胸像募金や、松山のシンポジウムで早川理事長、樋口理事が講演したりと、既に親交のある両会ですが、これを機に一層交流を深めようと、16日は新潟銘酒を酌み交し、18日は野球少年たちと共に早川理事長の案内で資料館を見学されました。資料館では両会の活動状況パネルを展示中です。(事務局)



両会紹介パネルの前にて



## イベント案内

### 大河津分水講演会2014開催

7.13水害から10年を迎えた三条市を会場に、第3回大河津分水講演会を開催します。(事務局)

日時：平成26年12月7日(土) 13:30～16:00

講師：国土交通省北陸地方整備局長 野田 徹氏

演題：調整中

場所：燕三条地場産業振興センター

リサーチコア 7F マルチメディアホール

三条市須頃1丁目17番地 TEL0256-32-2311

※参加申込は事務局まで。(定員180名)

※スタッフ募集中。希望者は事務局まで(15名程度)

### サケまつり&信濃川教養講座

恒例のサケまつりを開催します。サケ汁と新米おにぎりをいただきます。遊びに来て下さい。(事業部)

日時：平成26年10月18日(土) 11:00～13:00

場所：大河津資料館(自由参加・飛び入り歓迎)

#### 信濃川教養講座～旧可動堰の保存と撤去～

越後平野を守り続けて来た旧可動堰。その一部が保存されました。撤去工事の担当者をお招きして、工事への想いや保存の工夫をお話いただきます。

日時：平成26年10月18日(土) 13:00～15:00

場所：大河津資料館2F多目的ホール

講師：福田組(講師名未定) ※参加希望は事務局まで

### 「最上川を巡る～直江石堤と舟下りの旅～」

信濃川にも縁のある上杉藩士直江兼統の最上川治水に触れ、上流から河口まで巡ります。(事業部)

日時：平成26年9月6日(土)～7日(日)

集合：大川津ふれあいセンター→横川ダム(小国町)→直江

石堤(米沢市)→三難所舟下り(村山市)→宿泊(新庄市)→

最上峡舟下り(戸沢村)→さみだれ大堰(酒田市)→山居倉庫

(酒田市)→赤川放水路→加茂水族館(鶴岡市)→大川津

※募集は締め切りました(定員25名)

### 庭木剪定に参加しませんか

今年も秋の庭木剪定を行います。手持ちの道具を持参して下さい。剪定くず集めの方歓迎。(支援部)

日時：平成26年11月8日(土) 10:00～12:00

場所：大河津資料館敷地内

慰労会：終了後、ふれあいセンターにて慰労の昼食会を開催します。

※参加希望者は事務局までご連絡ください。



団体会員  
ご紹介

## 我ら大河津分水応援隊！

### 地域に貢献する地元建設業者として

#### 大河津建設株式会社

信濃川大河津資料館友の会の皆さん、団体会員の大河津建設株式会社です。最初に当社の創業・設立についてのべさせていただきます。

昭和 30 年に初代社長、室 二生が当時、建設省信濃川工事事務所として初めて旧洗堰改造補強工事を請負施工とした時、施工会社である東京の大手業者「川田工業株式会社」の現場主任技術者として工事現場に派遣されて以来、この分水の地に根をおろしました。以降大河津分水付近の大構造物（旧洗堰補強工事・旧可動堰嵩上工事・第 2 代大河津閘門改築工事・西川用水機場新築工事）等多くの重要構造物を完成させた後に、昭和 50 年 6 月に現在の大河津建設株式会社を旧分水町に設立し、今日に至っております。

合併前の三島郡大河津村当時には、大河津と名の付く事業所はかなり多くありましたが、合併後の現在におきましては、国土交通省の大河津出張所、燕市大川津集落にある大河津郵便局、そして我社の大河津建設株式会社の 3 事業所のみとなっております。

当社は、大河津分水の膝元にあり、治水・利水の重大な使命を守る大河津分水路のため、今日に至るまで治水事業を維持するために、多くの災害復旧工事や維持補修工事等に携わって参りました。現在は、ここ数年来大河津管内維持管理作業に参加させて頂いているところでございます。

最近の報道等によると「信濃川水系河川整備計画」が策定され、大河津分水路大改造事業が優先的に進められると言われております。この計画が一日も早く事業化されて行く事を願っております。地元の当社もこの大事業に多少なりとも参加させていただけるよう、日頃より努力を重ねて参りたいと思っております。

NPO 法人信濃川大河津資料館友の会の皆様の、一層のご活躍を期待するとともに、当社も会員の一員として大いに協力して行きたいと思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

### これまで、これからも

#### 一般社団法人 北陸地域づくり協会

大河津分水には、前身である北陸建設弘済会のことから、さまざまなかたちで関わってきました。とくに、昭和 53 年の開館から 30 年超の長きにわたって資料館の管理運営に携われたことは、今でも組織の貴重な財産となっております。その間、平成 14 年のリニューアルにおいては、その検討から施工、そして友の会の立ち上げと、ハード・ソフト両面で注力させていただきました。

平成 13 年、可動堰竣工から 70 年という節目に刊行を開始した『大河津分水双書』は、10 年の歳月をかけ全 10 巻を揃えることができました。全巻の編集・執筆は、資料館リニューアル後の館長に就かれた五百川清先生。当会はもちろん、情報提供など多くの協力者を巻き込んだ先生の熱意の賜です。そのほかにも、『久遠の人 宮本武之輔写真集』や土木学会から賞を授与された映画『郷土の宝』の制作など、地域の成り立ちを語るに欠かせない大河津分水という偉業を広く知らしめ、後世に伝える役割の一端を担ってきたところです。

今後、大河津分水路はいよいよ抜本改修に向かいます。江戸の昔から三百年続いてきたこの偉業の物語にはまだ終わりが見えません。これからも、この壮大な物語の読み手として、書き手として、あるいはそこに出てくる端役として、さまざまに関わっていければと願っています。



大河津分水双書全 10 巻

＜編集後記＞可動堰改築事業が竣工し、4 月には大河津分水改修事業調査着手式が催されました。聞きなれない式典ですが、それだけに、抜本改修に向けた国土省の強い意志を感じます。微力ながら、しっかり応援していきましょう。そんなこともあって、レンタサイクルを始めました。毎日 8:00~18:00 まで新管理橋が渡れるようになりました。ペダルをけて可動堰の迫力を間近に感じると共に大河津分水の雄大な景色も楽しんでほしいものです。◇本号で紹介された大河津分水双書の余部あります。友の会事務局に連絡いただければ取り次ぎます。(i)

#### ＜事務局連絡先＞

〒959-0123 燕市大川津 1215-7

TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682

e-mail ohkouzu\_tomonokai@yahoo.co.jp <https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/>